

日本では新型コロナウイルス感染対策の決め手となるワクチン接種が進み、経済正常化への模索が続いています。しかし、経済を以前の状態に戻す「正常化」と、経済に活力を取り戻し経済成長を促進する「活性化」とは視点が異なり、経済を活性化するにはスタートアップ企業（またはベンチャー企業）を創業する起業家精神の高揚が不可欠と考えられます。たとえば最近、経済界で「45歳定年制」発言が物議をかもし、若年層では経済的独立をもとに早期退職を目指す「FIRE」への関心が高まりました。もっとも両方とも実現はかなり難しいでしょうが、この背景には起業家精神の発揮による経済活性化シナリオへの示唆があると推測されるのです。

さて、これまで5回にわたり「経済を読む」観点から、ドローン（小型無人機）や「空飛ぶ車」などの最先端の技術開発に取り組むキャリオ技研株式会社（本社管理本部は名古屋ルーセントタワー39階、富田茂社長）によって北海道広尾郡大樹町に設立されたジュラテクノロジー株式会社のハンタースクール『森のハンター教習所』に焦点を当ててきました。このハンタースクールでは次世代ハンターとなる狩猟技術者の育成事業だけでなく、地域経済の活性化を目指し捕獲した有害野生鳥獣の有益化事業にも熱心に取り組んでいる点が注目されます。具体的にはハムや缶詰などの食肉加工品に加え、人気の高い犬用のペットフード、骨や皮を使った珍しい工芸品ですが、こ



HIROEUMI TANGE

ハンタースクールに 高まる期待へ5

丹下博文氏

一九五〇年、愛知県生まれ。早稲田大学法学部卒業。同大学院法学研究科修士課程修了。米ロサンゼルス大学経営大学院修士(MBA)、同大学院客員研究員。UCLA(米カリフォルニア大学ロサンゼルス校)経営大学院および社会公共政策大学院客員研究員。愛知学院大学教授を経て現在は企業経営総合研究所代表。博士(経営学)。主著に「企業経営の社会性研究」を含む企業経営研究三部作(中央経済社刊)など多数。環境経営学会から学会賞(学術貢献賞)、日本物流学会から学会賞(著書)を受賞。

れらの商品はオンラインで購入できるジュラテクノロジーのホームページをご参照ください。

なお、狩猟で得た野生鳥獣の食肉は一般に「ジビエ」と呼ばれ、日本では馴染みが薄いかもしれませんが。ところが「ジビエ」自体はフランス語で、世界的に著名なフランス料理では昔から高級食材として使用されているとともに欧州各国で郷土料理の食材として珍重されてきた歴史があります。さらに美味しいだけでなくヘルシーな食材です。

一方、北海道物産展が全国各地で大好評を得ていますが、ジュラテクノロジーのエソシカのジビエ商品は北海道大樹町のふるさと納税の返礼品に加えられ、中部圏では岐阜市内にある「クリンゲン」という手作りハム・ソーセージの専門店で購入できます。ちなみに大樹町は驚くほど綺麗な満天の星空が見られ、自然に囲まれてアウトドア指向が強く「宇宙の出発駅」になることが町の夢に掲げられるほど新たなチャレンジにあふれており、これだけでも価値がありそうです。

最後に、中部経済の中核となる愛知県では最近、新産業創出につながるスタートアップ企業の育成が活発化していますが、大自然から学び最先端技術のドローンやセンサーを用いるジュラテクノロジーのハンタースクールは、まさにスタートアップ企業を成功に導く起業家精神の高揚に資すると確信され、この点からもウィズコロナ時代に発展への期待が一層高まるわけです。 〈完〉